

◎特集1 / 義務教育の質の保証に資する学校評価システムの構築による学校改善について

◎特集2 / 山梨スケートインターハイの開催について

- 栄養教諭について
- 国語力向上実践事業について
- 交通安全教育実践地域事業の取り組みと成果について
- ミュージアム甲斐・ネットワークが発足しました！
- 「成人式」を迎えたでっかい体験！
～やまなし少年海洋道中『八丈の夏』～
- 県立博物館新春特別企画展「かいじあむ とっておきの収蔵品」
- らくがき …… 韮崎小学校 山本由美子教諭
下吉田中学校 高村文秀教諭
- 県立文学館平成19年度収蔵品展
- 学校紹介 / 南アルプス市立櫛形中学校・県立盲学校
- 総合教育センター情報 / 教育相談部
- 県立図書館 / 「図書館員の道具箱」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財 大善寺中世墓出土陶器七点 (大善寺)
- 主な行事予定



義務教育の質の保証に資する学校評価システムの構築による学校改善について

—甲斐市立竜王東小学校—

はじめに

甲斐市教育委員会では、文部科学省、山梨県教育委員会から「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」推進地域の指定を受け、平成十八年度市内小・中六校、十九年度市内全小中十六校を研究協力校として、学校評価ガイドライン（文部科学省）を活用した学校評価システムの構築による学校改善を実施しています。推進地域の指定ということで甲斐市十六校の小中学校が同様の研究実践を行っております。本校は二年間この研究に携わることができました。山梨県教育委員会、甲斐市教育委員会及び有識者として大学教授の指導を仰ぎながら行った学校評価の一部を紹介させていただきます。

今までも学校では、詳細な質問項目により、きめ細かく年間の教育活動をチェック（評価）し回答を点数化したりして改善に生かしていました。また、結果を保護者に公表するなど工夫した学校評価への取り組みが見られています。法の改正による今回の学校評価で注視されているのは、教職員以外の方々に学校の評価をして頂くという点と、それに伴う学校からの情報提供の点についてではないでしょうか。

教職員以外の学校評価について

本校でも教職員以外の学校評価組織として、学校関係者評価委員会（外部評価委員会）を設置して年間二回、九月と一月に開催し、それぞれ二学期以降と来年度の教育改善に生かしています。この委員会は、教職員の自己評価や児童、保護者のアンケートをもとにして学校が作成した「自己評価書」（資料1）を中心にして学校の状況を評価していただく組織です。本校では学校評議員六名とPTA役員三名の九名で構成しています。この方々と校務分掌に位置付けてある学校評価委員会（校長、教頭、教務主任、生徒指導主任）の四名合計十三名が一堂に会し、PTA会長に司会をお願いして自由な形で討議します。学校評議員とPTA役員ということで学校理解が深く、常に学校教育を改善していく視点で意見・要望等を提言していただいています。こ

竜王東小学校自己評価書 平成19年9月3日（月）作成

本年度の学校教育目標 「人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成」	
本年度の経営方針 (1) 学校、児童、地域の実態に合った特色ある教育課程の編成と実施及び評価と改善 (2) 多様な学習指導と幅広い教育活動の展開 (3) 全教育活動を通しての言語環境の整備 (4) 学校、保護者、地域との連携を図った健康と安全の保持増進	
I 全体評価	
本校の総合評価は、教職員の自己評価シート集計結果と全児童のアンケート集計結果及び教育活動状況等から、学校教育が安定的に実践されていると考える。 具体的には、教職員の自己評価シート集計結果では、全ての指標が肯定的評価（A そう思う B ややそう思う）の合計が90%以上であったこと。また、全児童のアンケート集計結果においても、過去の評価（平成18年度に行った2回のアンケート）との比較において、殆どの項目で肯定的評価の数値の向上、または高水準の数値で変化が少ない状況にあったことがあげられる。 しかしながら、「学校教育目標に関して」など指標の文言が具体性に欠け、評価の難しいものや、「学校経営・組織について」など新しい指標も加わっている部分では検討すべき内容もあると考える。また、全児童のアンケート集計結果における若干の項目については、今回を含めて3回の評価で肯定的評価が80%前後に留まっているものや、1学期間の教育活動状況を省みて、今回の肯定的評価が高くて個々への指導が必要な項目もあり改善を図らなければならないと考える。	
II 各項目ごとの評価	
項目I「学校教育目標に関して」	
達成の状況	改善策
全指標でA（そう思う）またはB（ややそう思う）の肯定的評価が90%を超えていることから項目I「学校教育目標に関して」は、充実したものになっていると考える。 特に次の指標については80%以上の教職員がAと回答し、強い肯定的評価となっている。 ①教育目標が経営方針を踏まえたものになっている。 ②学校教育目標達成のため、実態に即した学校経営が行われている。 ③教育活動計画が教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。 項目の中でAよりBのポイントが高いものは、今回新規に設けられた次の指標である。 ④あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	⑦について、今回新規に、「あなたは・・・」と、全体ではなく個々の教職員が問われると、どういった部分が具体的にP→D→C→Aサイクルになっているかが疑問で控えめな回答になっていると考える。教職員の意識を高めるとともに、校内研究会等で研修していきたい。有識者からは、調査時期と調査内容について検討すべきであると指摘があった。

資料1（自己評価書の一部）

平成19年度第1回竜王東小学校外部評価書

会議時間 平成19年9月7日（金） 午後3時～午後5時
会議場所 竜王東小学校 会議室
1 学校側からの説明事項
(1) 学校評価システム構築事業の説明 学校評価システムと学校関係者評価委員の役割について（教頭）
(2) 自己評価結果について シート説明（教務主任） 教職員用自己評価シート及び児童用シートについて資料に基づき説明
(3) 有識者による分析集約結果・自己評価結果について（校長） 「竜王東小学校自己評価書」及び「竜王東小学校自己評価・児童用アンケート分析結果」に基づき説明された。
2 協議（議長：PTA会長）
(1) 協議された主な内容 自己評価書から受ける竜王東小学校の実態（よい点・改善すべき点）及びアンケート内容等について下記の項目を中心に協議がされた。 ①学校が目指す学校経営方針（学校目標）及び組織のまとめり ②学習指導における教職員の取り組み及び児童の学習意欲や学校生活の実態 ③教職員、児童、保護者の連携 ④地域との連携
3 評価書
(1) 全体評価 教職員、児童のアンケート結果及びそれを踏まえた自己評価書を見る限り、今年度も学校教育目標、経営方針（グランドデザイン）に基づく適正な学校経営、教育指導、学習への取り組みが行われていることが確認できた。委員全員がこの水準が維持、向上できるような日々努力を重ね、先生方の連携を図りながら取り組んでほしいと望む。 有識者の考察、分析でも指摘されているように肯定的な意見であってもA「そう思う」が低い割合を示している項目もある。学校がより高い水準を目指し、教職員が話し合いや研修等を通じ、改善すべき点を理解し、よりよい学校づくりを目指す姿勢が感じ取られた。児童も学校が楽しい場所と認識しており、先生と児童の関係が円滑であることが確認できた。保護者との連携において、家庭での児童と家族の対話が積極的に行われるようないろいろな手段を用いた働きかけが必要である。
(2) 特徴、要望等について ①学校が目指す学校経営方針（学校目標）及び組織のまとめり ・PDCAサイクルの確立 ・グランドデザインに則した学校経営、学習指導

資料2（外部評価書の一部）

の委員会でもとまったことを、PTA会長が外部評価書（資料2）として作成し、学校へ提出すると共に甲斐市教育委員会へも提出します。この外部評価書を中心に自己評価書やアンケート結果も含め、職員会議で検討し学校改善に役立てています。

教職員の自己評価、児童、保護者のアンケートについて

次に七月と十一月の年二回実施している教職員の自己評価と児童へのアンケート及び十一月に実施の保護者へのアンケートについてです。推進地域の研究指定ということで、この二年間の実践に関わる教職員個々の自己評価シート及び、児童、保護者のアンケート内容は、甲斐市内統一の質問項目と各校の特色を生かしたオリジナル質問項目とで構成されています。

特長としては、マークシート方式を採用し教職員が集計などに携わらなくてもよい点があげられます。教職員の多忙化が指摘され、児童生徒とのふれあい重視されている中で、大変有効なシステムです。また、児童、保護者及び教職員でほぼ共通な質問項目をいくつか設けることにより、それぞれの傾向を比較することができます。学校と保護者が子供を中心におき、課題を明確にした取組が可能になっています。研究をしていく過程では、質問項目の文言が問題にもなりました。甲斐市では何度か改善を加えています。今後も検討課題としています。

有職者からは「アンケートについては、少ないサンプル数からの結果の提示は慎重であるべきである。当然の事ながら三十人の学級で三人違えば十%となる。また肯定的評価が九十%は可で、八十%は不可というような明確な基準があるわけではない。」という指導をいただきました。学級や学校の実態を重視した分析が肝要であると感じています。

学校からの情報提供について

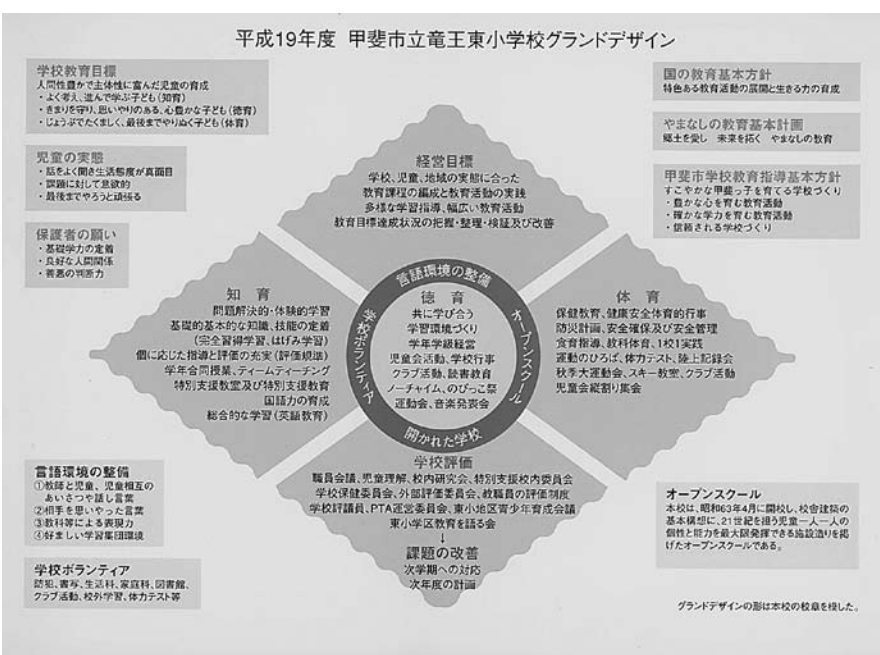
学校評価では、学校がその学校の特性、課題等をしっかりとらえてどう目標を設定し効果的に公表するかが根幹となります。保護者・地域住民の方々に学校の教育活動等を理解していただくことが効果的な学校改善につながると思います。このことを受けて本校では、各学校でも作成しているランドデザイン（資料3）を活用することにしました。

学校だよりを発行するたびにランドデザインを掲載し、教育内容や行事と教育計画の関係についてふれ学校の教育意図が分かっていた、ただけるように

努めています。ランドデザインは、教育計画、実践、評価、改善が視覚的、構造的に把握でき、地域、保護者に分かりやすい情報といえます。

おわりに

この学校評価は教職員、児童生徒、保護者、地域が互いの考えを出し合い課題を共有しながら学校をより良くすることが期待できるシステムであると考えます。なお、平成十八年度末に甲斐市教育委員会から発行された「学校評価システム構築事業の推進地域及び協力校の実践報告」に甲斐市の取組、双葉中学校の実践が詳細に報告されていますのでご活用いただければ幸いです。



資料3（ランドデザイン）

特集2

山梨スケートインターハイの開催について

—スポーツ健康課—

平成十九年度全国高等学校総合体育大会第五十七回全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会が、平成二十年一月二十一日（月）から二十七日（日）の七日間、「翔け 氷上の勇者たち この甲斐の地で」のスローガンのもと三十三都道府県から約二百四十校、千名の選手が集い、富士吉田市、甲府市を会場として開催されます。この大会は、高等学校教育の一環として高校生に広くスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健全な高校生を育成するとともに生徒の相互親睦を図ることを目的に毎年開催され、大きな成果を上げております。

山梨での開催は、昭和四十四年一月に富士急ハイランド・富士スバルランドで開催されてから、今回で六回目の開催となります。

■これまでの開催の歴史■

全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会は第一回大会を戦後間もない昭和二十六年に長野県蓼科湖で開催され、今回の大会で五十七回を数える歴史のある大会です。スケート競技の特性上冬季の気温が低く、雪の少ない地方で盛んに行われているため、北海道、東北、北関東、甲信・中部地方で開催されています。本県は開催可能な最南端となります。また、本県の北杜高等学校は前身の峡北高等学校時代を含めて第一回大会から今大会まで連続五十七回出場を果たす全国で唯一の歴史有る学校です。

この大会に出場した選手の中からオリンピックの金メダリストをはじめ、世界選手権優勝者、世界ジュニア選手権優勝者等あまたの名選手が育っています。



■高校生の協力体制■

本大会はスケート競技・アイスホッケー競技を行う高校生の成果を発表する最大の舞台であります。このため、大会の運営にも多数の高校生が当たります。主に裏方として競技運営、大会運営の補助員として毎年活躍しています。

本県では前回の第五十回大会において県内の各高校より述べ三百三十名程度参加しました。今回の大会はできるだけ、肥大した大会規模を簡素化し、シンプルに行う基本方針の下、百人程度にお手伝いをいただく予定となっています。

これまでの準備においては、各高等学校に御協力をいただく中で、スローガン、ポスター、メダルの図案を募集したところ、スローガンは一七九一点、ポスターは四〇点、メダルの図案に一五五点の応募をいただきました。その中から各部門ごと、次の作品が選ばれました。

■スローガン

県立吉田高等学校三年 羽田香奈さん

「翔け 氷上の勇者たち

この甲斐の地で」

■ポスター

県立甲府南高等学校 元三年 古泉信太さん



■ 入賞メダル

県立吉田高等学校 元三年 宮下芳央理さん
の作品が選ばれました。



■ 開催に向けて

スケートインターハイの歴史は古く、戦後まもなく始まり、学校の教育活動の一環として今日までその歴史を刻んでいます。多くの選手が本大会をとおし、生涯の友達を得て、ともに励まし、支え合い、より良い人間関係を築いて参りました。また、これまで、我が国の文化・スポーツ等の基盤を支えて、先にも述べましたが、世界に誇る人材を輩出したり、人々に夢や希望を与えて参りました。本大会でも、各都道府県の厳しい予選を勝

ち抜き、郷土の代表として参加される選手の皆さんが、高校生活をとおして鍛えた力・技・精神力の限りを尽くし、健闘し、素晴らしい記録を出すとともに、選手相互の交流や地元の高校生や地域の方々の交流を深めていただけるような心温まる大会となるよう準備を進めております。

■ 声援をお願いします

さて、本県高等学校スケート競技の課題は、競技人口の減少です。しかし、吉田高校、北杜高校、富士学苑高校、帝京第三高校を中心にスピード競技は全国において、その成果を発揮し、数々の優勝者や入賞者を輩出するとともに、学校対抗で優秀な成績を収めています。冬季国体においては、天皇杯、皇后杯得点の得点源として頑張つて参りましたが、本年も競技人口激減の中、厳しい状況ですが、必勝を期して少数精鋭で頑張ることを期待しております。また、アイスホッケーも地元開催ということで、富士北稜高校アイスホッケー部の全国大会公式戦の初勝利を目指し頑張つております。フィギュアは、小瀬スポーツ公園アイスアリーナの設置により、かつてのフィギュア王国の復活を目指し、フィギュア人口の増加とレベルの向上に期待がかかっております。

日程・会場は次のとおりとなりますので、是非とも会場にお越しいただき、出場選手たちに熱い声援を送るとともに、選手達を支える補助員にも温かいことばをかけていただきたくお願い申し上げます。

開催まで残すところわずか一月となりましたが、御理解をいただき、成功に向けて皆様の御協力を切にお願いする次第です。

■ 会期

区分	競技名	期 日
開始式	スピード競技	平成20年1月20日(日)
	フィギュア競技	
	アイスホッケー競技	平成20年1月23日(水)
競技	スピード競技	平成20年1月21日(月)～24日(木)
	フィギュア競技	平成20年1月21日(月)～23日(水)
	アイスホッケー競技	平成20年1月24日(木)～27日(日)

■ 会場

区分	競技名	会 場
開始式	スピード競技	ホテルハイランドリゾート
	フィギュア競技	小瀬スポーツ公園武道館アリーナ
	アイスホッケー競技	小瀬スポーツ公園武道館アリーナ
競技	スピード競技	富士急ハイランドセイコオーバル
	フィギュア競技	小瀬スポーツ公園アイスアリーナ
	アイスホッケー競技	小瀬スポーツ公園アイスアリーナ 富士山アリーナ

栄養教諭について

Q 栄養教諭が誕生した背景を教えてください。

A 児童生徒が心身ともに健康な生活を送るためには、健全な食生活が必要となりますが、近年、食を取り巻く環境が大きく変化し、朝食を欠食するなど、児童生徒の食生活の乱れが深刻ななっています。

このようなことから、児童生徒が生涯にわたって健康に過ごせるよう、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるための効果的な指導体制を整備することが急務となり、平成十七年度に、学校における食育を推進するための中核的な役割を担う栄養教諭が誕生しました。

Q 具体的な職務内容は？

A 法令には「栄養教諭は、児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる。」とあります。

このことは、栄養教諭は、栄養に関する専門性と教育に関する資質とを併せ持ち、それを生かして児童生徒に対する「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体的に行うことを職務とするということを意味しています。職務の一例を挙げますと、各学校における食に関する指導全体計画の作成や給食だより等による家庭との連携、体験学習等に関して地域の生産者との連携等において中心的な役割を担います。また、見る・食べるといった行為を通じて楽しみながら、興味や関心を引き出すことができる学校給食を生きた教材として活用

用しつつ、学級担任や教科担任と連携しながら食に関する指導を行ったり、児童生徒に対する個別的な相談指導も行います。あわせて、衛生管理を始めたとした学校給食の管理についても学校栄養職員と同様に行います。

そこで、このような職務内容から栄養教諭は、食に関する教育のコーディネーターとしての役割を果たしていくことが期待されています。

Q 県教委の取組状況を教えてください。

A 平成十七年度から三年間、現職の学校栄養職員が栄養教諭免許状を取得するための栄養教諭育成講習会を開催するとともに、同十九年四月には、栄養教諭五名を採用し、県内の五つの学校に配置しました。

これらの学校（市町）では、栄養教諭が中心となつて実施する文部科学省の委託事業を受けており、現在、関係者が懸命に取り組んでいるところです。（下段☆印参照）

Q 今後はどうなりますか？

A 県教委では平成十九年三月に「学校における食育推進のための指導手引き」を作成し配付したところですが、栄養教諭は、この学校における食育を推進していく上で要となる教員です。現段階では、まだ歴史も浅く数も少ないため、なじみは薄いかもかもしれませんが、今後、配置の拡大について検討されることになっていきます。

— スポーツ健康課 —

☆「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」



実施校

- ・甲府市立 琢美小学校
- ・笛吹市立 八代小学校
- ・大月市立 大月東中学校

☆「地域に根ざした学校給食推進事業」

実施校

- ・韮崎市立 韮崎西中学校
- ・南部町立 睦合小学校



国語力向上実践事業について

— 高校教育課 —

1 趣旨

平成十六年から昨年まで実施した「国語力育成推進事業」では、「読むこと・書くこと」「話すこと・聞くこと」の指導事例集を作成しました。そして昨年は、研究指定校での検証を行いました。この成果や指導事例集を活用し、各高等学校で実践的で全校的な取り組みを進め、本県高校生の国語力を向上させることを目的とした事業が、「国語力向上実践事業」です。本年度から平成二十一年度までの三年間が事業期間となっています。

2 国語力向上実践事業中間発表会から

去る九月二十日に、山梨県総合教育センターで中間発表会が行われ、全体の概況報告と、葦崎高校・桂高校から状況報告がありました。県立高校三十一校の事業目標別概況は、次のとおりです。

- (1) 思考力・表現力の向上を図る取り組み 《十六校》
 - (2) 漢字・語彙力の向上を図る取り組み 《八校》
 - (3) 思考力・表現力、漢字・語彙力の向上を図る取り組み 《四校》
 - (4) 読書習慣の形成や学習の動機付けや、学習基盤の整備を図る取り組み 《三校》
- 事業推進に際しては、学校全体の認知度や理解が薄いと感じていたり、事業遂行時間の捻出に苦勞している例も若干見られました。多くの学校では職員の意思統一や協力が得られ、順調に推進している状況が確認できました。そして生徒たち

が前向きで意欲を示す学校もあり、その様子に力を得て、自信を持って事業推進をしているとの報告もありました。

そして、学校全体としての共通理解を踏まえ、全校的な体制を整え、事業を推進している学校は、それぞれの学校毎の独自の特徴を、上手に生かした国語力向上となっている点も明らかになりました。

また東京都千代田区立中等教育学校の取り組みで、「語彙・漢字力」と「国語力・英語力・数学力」の相関関係が確認できたとの報告がありました。

漢字・語彙力を中心に事業推進をしている学校には、参考ともなり刺激にもなったようでした。

今後の課題は、事業実施後に効果を確認するための評価指標を整備すること、事業の区切り生徒や教師等の「満足度」、「達成度」のアンケートを実施し、事業評価の一部にすること、これらについて参加校全体で確認しました。

3 中間発表校の事例から

(1) 葦崎高等学校

「国語力向上アクティブ事業」

研究主題を「自ら考えて行動できる生徒の育成」とし、副題を「物事を論理的・客観的に捉えて考え、表現する力の育成」と設定し、具体的目標を、次の①と②としています。

- ①教科書や新聞記事の内容等を正確に読み取り、理解する力を育てる。
 - ②ディベートや意見文の作成等を通して、論理的、客観的思考と表現する力を育てる。
- こうした目標達成を、全教科や全分掌などで学

校全体で取り組んでいる様子が報告されました。

(2) 桂高等学校

「命の大切さの学習と連携させた国語力の向上」

昨年度までの文部科学省指定「命の大切さを学ぶ体験活動」の研究成果を継承・発展させて、国語力の向上を図るとする目標を掲げています。

次の①から⑩の具体的な取り組みを進め、学校全体で国語力向上を目指していく試みです。

- ① MIND (朝の読み聞かせ読書)
 - ② 朝の十分間読書
 - ③ 図書館の活用
 - ④ 校内文芸コンテスト
 - ⑤ 新聞を用いた授業
 - ⑥ 小論文指導
 - ⑦ 漢字検定の活用
 - ⑧ 各教科での取り組み
 - ⑨ 作文コンテスト等への応募
 - ⑩ 修学旅行記の作成
- ⑪ 総合的な学習 (通称 F I N D)、情報等でのレポート作成やプレゼンテーション

4 まとめ

葦崎・桂高校以外の各県立高等学校も、生徒が身に付けた知識・技能を活用する場面を教育計画に位置付け、生徒たちの国語力を高めようと工夫しています。また各学校は、それぞれの特徴を生かした国語力向上を進めています。

国語力の向上は、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることに他なりません。それは豊かな学びの大前提でもあります。今後、さらなる国語力向上を図っていきたいと考えています。

交通安全教育実践地域事業の取り組みと成果について

— 山梨県立富士北稜高等学校 —

本校は平成18年度・19年度文部科学省委託交通安全教育実践地域事業の研究指定を受け、「交通ルールの遵守と規範意識の向上を図る」を研究主題に、交通安全教育を行っています。平成18・19年度の新たな取り組みとその成果の一部を紹介します。

2 平成19年度

も交通安全意識の高揚と安全運転の習慣づけを図る良い機会となった。

観光地としての富士吉田周辺の道路事情及び交通事故の発生場所・原因について調べ交通事故の責任と補償についても考えた。

① 各教科での取り組み

昨年一年間の研究成果を踏まえ、今年は教科の面からも交通安全教育を行っている。

ア 一年「保健体育」

応急手当の意義と怪我の応急措置及び心肺蘇生法とAED使用方法についての説明及び実技講習を実施。

イ 二年福祉健康系列「家庭看護・福祉」

富士五湖消防本部より八名の講師を招き、応急手当普通救命講習会を実施。応急手当の必要性、心肺蘇生法、大出血時の止血法、AEDの取り扱い等についての講習を受け、その後認定試験を受験し応急手当普通救命の資格を取得。

ウ 三年福祉健康系列「ボランティア入門」

富士吉田警察署交通課より四名の警察官にご協力をいただき、市民生活における地域ボランティアの立場から学校周辺の道路の安全性について車いすと自転車の場合を想定して検証し、危険箇所の対策について考えた。

エ 二年ビジネス系列「観光一般」

1 平成18年度

① 交通安全意識調査の実施

本校の生徒及び吉田・富士河口湖・富士学苑高校の生徒を対象に交通安全意識調査を行い、富士五湖地域の高校生の交通安全に対する意識の実態を把握し、その後の指導に生かしている。また、ハザードマップを作成し、生徒が認識している通学路の危険箇所の共通理解を促した。

② 一輪車講習会

従来、学校のグラウンドで実施していたが、岳麓自動車教習所のコースを借りて実施した。安全運転に必要な知識や技術、危険予測、回避能力の向上などにより充実した内容で実施できた。

③ セーフティドライブチャレンジ200

教員60名と原動機付自転車（バイク）の免許を持つている生徒30人が参加。教員も生徒

② 職員研修会

職員の交通安全に対する意識を高め、指導力を向上させることを目的として、①心肺蘇生法・AED使用方法 ②交通安全講話 「飲酒運転について」の職員研修会を実施した。

この一年半を通し、交通安全教育の実践を行ってきた結果、生徒の交通安全に対する意識も少しずつ向上しています。これからもあらゆる機会を通し、時間をかけて交通安全教育を行い、生徒一人ひとりが交通社会の一員としての自覚を持ち、「思いやりの心」を持って自主的に交通安全に取り組めるよう指導していきたいと考えています。



ミュージアム甲斐・ネットワークが発足しました！

山梨県博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して

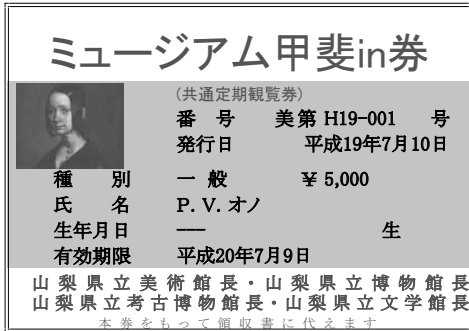
— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、館の活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指して、本年8月、「ミュージアム甲斐・ネットワーク」が、県内104館の美術館、博物館等が参加して新たにスタートしました。

この取り組みの第一弾として、今秋、南アルプス市立春仙美術館と河口湖美術館において、県立美術館の収蔵品による巡回展を開催しています。

(春仙美術館は12月9日まで、河口湖美術館は12月24日まで開催) また、参加館の情報を掲載したリーフレット「ミュージアム甲斐ネットワーク発進!!」を作成して配布を行っております。さらに、参加館のうち4館のスタンプ、サインを集めると記念品がもらえる「発進」記念スタンプラリーも実施しています。

県教育委員会では、県立美術館、県立博物館、県立考古博物館、県立文学館の4館すべての常設展、企画展等(特



別展) が購入した日から1年間、見放題となるプレミアム・チケット「ミュージアム甲斐in券」を販売してご好評をいただいています。また、ミュージアム甲斐・ネットワーク参加館の中には、この「ミュージアム甲斐in券」を提示すれば、割引や特典が受けられるところもあります。詳しくはリーフレット「ミュージアム甲斐ネットワーク発進!!」をご覧ください。



リーフレット表紙

さらに、「ミュージアム甲斐・ネットワーク」では、各館から出された意見やアイデアを集約して、今後もしるいろいろな企画にアプローチしていきたいと考えています。山梨の美術館、博物館を熱くする「ミュージアム甲斐・ネットワーク」の今後の活動にご期待ください。

「ミュージアム甲斐in券」をご家族や友人にプレゼントしませんか？

「ミュージアム甲斐in券」(または各館年間パスポート)がご家族や友人などにプレゼントできるようになりました。

クリスマスや誕生日、記念日などのプレゼントにいかがですか。4館の窓口で発売しています。

ミュージアム甲斐in券

区分	料金
一般	5,000円
大・高校生	2,500円
中・小学生	1,250円

○問い合わせ先

学術文化財課	055 (223) 1790
県立美術館	055 (228) 3322
県立博物館	055 (261) 2631
県立考古博物館	055 (266) 3881
県立文学館	055 (235) 8080

「成人式」を迎えたでっかい体験！ くやまなし少年海洋道中『八丈の夏』

— 社会教育課 —

貴重なサバイバル体験の場

本県中学生の夏の風物詩と言える「フロンティア・アドベンチャー『やまなし少年海洋道中』」が今年で二十回を迎えました。

昭和六十三年度に文部省の補助事業として開始された本事業は、この二十年の間にプログラムの改良等を重ね、青少年に有意義な自然体験活動の場を提供するため、東京から遙か三百km離れた八丈島を舞台に、毎年「でっかい体験」を実施してきました。

二十年間で千人以上の中学生と、延べ三百五十人以上の指導者が暑い暑い夏を、八丈島で過ごしたのです。今年はその記念として、県教育次長参加の下、八丈町長をお招きし記念セレモニーをBC（ベースキャンプ）で行い、ハイビスカスの苗を参加者が植樹しました。五年後、十年後、ハイビスカスがきれいな花を咲かせていることを願っています。

海洋道中の二十年

第一回（昭和六十三年度）

七泊八日、参加者五十名でスタートした海洋道中。火おこしやナイトハイイク等、初年度からサバイバル生活の連続。

第三回（平成二年度）

シンボル小屋を造ったり、十八mもある岩場を下ったりの体験。

第七回（平成六年度）

八泊九日に日程を延長。三根公民館ではキャンプサービスを実施。

第八回（平成七年度）

八丈島内踏破（サバイバル踏破）がスタート。歌い継がれている「忘れられない 夏・愛のテーマ」が作曲される。

第十回（平成九年度）

十周年記念キャンプ。台風の影響で、雨中の炊飯の連続。

第十一回（平成十年度）

参加者六十人、採用二年目教員の参加。環境教育をプログラム化。

第十四回（平成十三年度）

台風の影響で、サバイバル踏破は合同ビバーク、ソロ活動は中止に。

第十五・十六回（平成十四・十五年度）

台風の影響から、二年連続で航空機対応。いずれも日程短縮。

第十九回（平成十八年度）

台風の影響で、帰りの船が寄港できず足止め。三根公民館で一日過ごす。

たくさん感動をくれた八丈島

いろいろなことがあった二十年でしたが、参加した中学生はもちろん、バックアップした指導者も、サバイバルと感動の八丈を体験することができました。

十時間以上の船旅は、日常生活からの脱出にもってこいです。往復の船はタイムマシンの役割を果たします。

炎天下でのテントアップや野外炊事は、普段の生活では考えられないことの連続です。最初のうちは一匹の蚊でさえ気になっていたのが、最後にはカナブンが目の前にも平気になりました。

電気が無くても、ガスが無くても、お風呂が無くても、洗濯機が無くても、少々のことなら生きていけるんだと感じます。

「キャンプ生活の醍醐味は、不便を便利に変えること」と語った指導者がいました。まさに、八丈島での生活を物語っています。

海の中があんなにきれいで、熱帯魚のような魚

が群れていたりと、フグやウミガメを間近で見ることができるとは思いませんでした。初めて見た天の川や、満天の星空を時間が過ぎるのも忘れて、首が痛くなるまで眺めていました。

「ナイトハイイク」や「サバイバル踏破」では、立ち寄った漁港で捕れたての魚をごちそうしてくれたこともあります。また、突然のスコールに軒先を借りて雨宿りをしていたらパッションフルーツをいただいたこともあります。毎年のようにスイカや麦茶を用意して待っていてくれる地域の方もいらっしやします。「がんばれ！」と言う一言が力になります。

今年は、パトロール車に「やまなし少年海洋道中実施中」のステッカーを貼り、巡回しました。「へえ〜山梨来てるんだ」との声を何度も耳にしました。八丈島でも「海洋道中」はすっかり根付いているようです。

参加者も指導者も、海洋道中を通して、八丈島の人々との交流が続いています。

♪
僕たちは忘れない あの日々を
仲間と過ごした 八丈の夏…♪

素晴らしい体験と、思い出を与えてくれた八丈島です。常に、八丈町の教育委員会の皆さんや八丈島の島民の方々の温かい御支援があつてのものでした。八丈島の皆さんに改めて感謝いたします。今後、多くの中学生の貴重な自然体験活動の場として、このやまなし少年海洋道中が発展していくことでしょう。

来年の夏も、暑い八丈が待っています。中学生時代の思い出に、暑い八丈ででっかい体験を繰り返しましょう！

新春特別企画展「かいじあむとっておきの收藏品」

— 県立博物館 —

とっておきの收藏品をご紹介します

県立博物館では、開館前の平成十三年より資料の収集を開始し、現在、収蔵資料数は約二〇万点に及びます。これら收藏品は、山梨の歴史を物語るものとして、県民の貴重な財産となっておりま

す。收藏品は、博物館の調査研究や展示などを通じて広く紹介しておりますが、いまだ紹介されていない資料も少なくありません。

本展では、こうした未公開の資料を中心として、博物館の収蔵品を、以下の五つのテーマから紹介

霊場の山とその景観

甲斐国は、四方を山々に囲まれていたこともあり、多くの山が信仰の対象となり、現在にもその歴史を伝えていきます。

「御嶽道絵巻」(写真)は、幕末〜明治時代に活躍した県内出身の画家、三枝雲岱が、金峰山や、その麓に鎮座する金櫻神社などを描いたものです。金峰山は、山梨でも特に信仰を集めた山の一つであり、金櫻神社にも多くの参詣者が足を運びまし



御嶽道絵巻

た。その他にも、富士山、身延山などに関する資料を中心に紹介します。

甲斐源氏の足跡

平安時代の後半に甲斐に土着した甲斐源氏は、源平の争乱で活躍し、その後も鎌倉幕府を支えて全国各地に所領を得ました。「源平合戦図屏風」や「曾我物語図屏風」(写真)は、ともに甲斐源氏が活躍した史実を題材として描かれた屏風絵です。お正月に相応しい、きらびやかな屏風の世界をお楽しみください。

徳川家康と甲斐

天正十年(一五八二)に武田氏が滅亡したのちに、甲斐を治めた徳川家康に関する資料を紹介いたします。家康が甲斐を治めた期間はそれほど長くはありませんが、検地や「九筋」と呼ばれる地域区分の設定など、現在の山梨にも深く関わる政策が実施されました。

躍動する商人・職人

紙漉・印章・宝飾加工など、山梨では様々な地場産業が発展していますが、中世(鎌倉〜室町時代)においても、様々な生業が



曾我物語図屏風

営まれ、多くの商人・職人が活動していました。「七十一番職人歌合」は、様々な職人の姿を描いた興味深い資料です。その他にも、山梨の多様な自然を活かした生業を紹介いたします。

山梨のミシン

ミシンが人々の生活と深く関わっていた頃の、県内で製造・販売されたミシンや、海外の貴重なアンティークミシンなどを紹介します。

展示予定のほとんどの資料が初公開のもので、ぜひこの機会に足をお運びください。また、お正月は二日より開館しておりますので、ぜひご家族でおいでください。

《開催期間》

平成二十年一月二日(水)〜二月十一日(月・祝)

《観覧料》

常設展観覧料でご覧になれます。
一般五〇〇(四〇〇)円、大・高生二一〇(一六〇)円、小・中学生一〇〇(八〇)円 ※()内は二〇名以上の団体割引、県内宿泊者割引

《お問い合わせ》

山梨県立博物館学芸課
電話〇五五―二六一―二六三一



らくがき

「手紙」

山本 由美子

それは公開研究会の翌日のことだった。家に帰ると机の上に薄いクリーム色の封筒。手書きの宛名、急いで裏返すとそこには、懐かしい名前があった。

二十数年前、僻地勤務で行った学校で、初めて1年生を担当した。入学式で私が呼名したのは13人。懐かしい名前はその中の一人だった。

便箋4枚に渡り細かな文字が丁寧に並んで、高校卒業後の出来事が綴られていた。大学生生活、就職をしてからのこと、結婚して二児の父であること、そして、これからの夢。手紙には「今も文章が苦手で・・・」などと書かれていたが、どうしてどうして、すてきな手紙だった。彼が人生のどの局面でも、自分自身とまわりの人たちに対して誠実に生きてきたことがよくわかった。そして、それを伝えてくれたことが嬉しかった。

韮崎小学校では、学力向上拠点校として『生き生きと自ら学ぶ子どもの育成』を目指し、国語では、特に書く活動に力を入れてきた。そこへこの手紙は、自分で自分をほめるほどではないにしろ、多くの方々と力を合わせてがんばってきたことに対するスペシャルなご褒美のようによってきて、「書く」ことを大切にすることは価値のあることだと改めて確信させてくれた。

「あの頃は悪ガキですみませんでした。」とも書いてあったが、謝ることなんて何も無い。ドキドキ、ハラハラ、ワクワクしたすべての出来事が宝物だし、この手紙が、また新たな宝物となったのは言うまでもない。

韮崎市立韮崎小学校教諭



「感動できない自分」

高村 文秀

「この映画いいよ」「この本、泣けるよ」と友人に薦められ、映画や小説を見ることがある。確かにいい話だなと思うことはあるが、心から感動することはない。

30歳を過ぎ、自分の感覚も鈍ってきたのかな、と情けなく思ったこともある。でも、その答えが最近わかるようになった。それは自分の身のまわりに感動することがたくさんあるということ。生徒たちが様々な問題乗り越えた瞬間、心から感動することができる。大きな行事ならその感動も大きい。でも、小さなことでもそれはある。難しい問題を解くことができた瞬間。部活で頑張って練習して一つのプレーができるようになった瞬間。そんなたくさんの瞬間が私の周りにはたくさんある。それが教師としての喜びなのだと感じることができるようになった。今、世間では「教育現場が危ない」と騒がれている。でも、私はそうは思わない。もちろん大変なことも、大変な時期もあるが、それ以上に感動できる瞬間にあふれている。

今年で教員11年目になり、10年経験者研修にも参加している。この10年を振り返り、もっとたくさんの感動できる瞬間に巡り会うことができるよう、子どもたちに接していきたい。

富士吉田市立下吉田中学校教諭

— 県立文学館 平成19年度収蔵品展 —

肉筆の魅力 正岡子規と新免一五坊、樋口一葉、柳宗悦、高村光太郎ほか

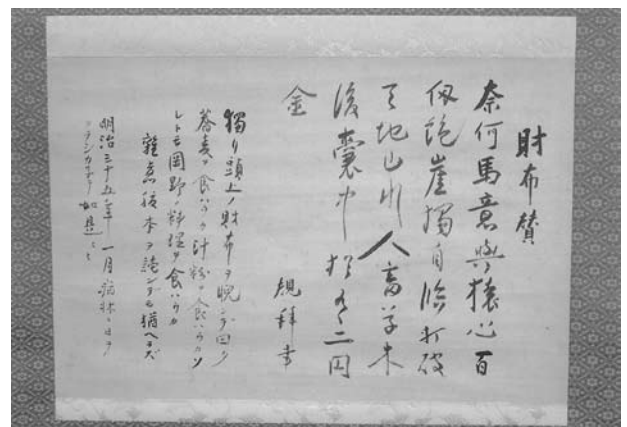
会期 平成二十年一月二十二日(火)～三月三十日(日)

文学館が今年度新たに収蔵した資料を公開する展覧会です。

今年度の資料の中では、新免一五坊の旧蔵資料が注目されます。一五坊は、岡山県に生まれ、上京して正岡子規の門弟となり、1901(明治34)年から4年間、山梨県の明日見村(現 富士吉田市)と谷村町(現 都留市)に住みました。この間、堀内柳南や神奈桃村など山梨の青年たちと、子規が唱える新しい文学の運動を上げようとしてきました。

今回新たに寄託を受けた資料の中には、子規直筆の「財布賛」軸装や、「燈籠にふたゝひとす夜半哉」の扇面額装などがあります。「財布賛」をめぐっての長塚節の書簡や、子規逝去前後の伊藤左千夫の長文の書簡も興味深い内容です。また、堀内柳南や神奈桃村の書簡からは、この時代に山梨の文学青年たちが、新しい時代にふさわしい文学をおこそうとしたその熱意が伝わってきます。

このほか、樋口一葉が両親のふるさと大藤村(現 甲州市)を舞台に描いた小説「ゆく雲」の未定稿、柳宗悦が山梨の郷土史家村松志孝に宛てた木喰仏研究に関する書簡や、韮崎市に在住した児童文学者で随筆家の太田黒克彦の「マスの大旅行」などの原稿、などを展示しています。観覧料は無料です。



子規「財布賛」1902(明治35)年1月

つなごう人の輪 広げようあいさつの和 ～ やり遂げた満足感・認められる笑顔・絆の中で育つ ～

平成18・19年度 国立教育政策研究所指定生徒指導総合連携推進事業

南アルプス市立櫛形中学校

この生徒指導総合連携推進事業は、地域が一体となって児童生徒の健全育成に向けネットワークづくりをふまえた実践的取組を行うものです。それをうけ、小中連携を柱に地域に発信する活動をしています。

いくつかの活動を紹介します。「笑うネコの会」は、櫛形地区の4つの小学校の児童会役員と櫛形中生徒会役員が自校について語る会です。その中で連携のアイデアを出し合います。「地域一斉あいさつ運動」では、地域ともいっしょになって秋の交通安全週間にあわせて活動をしました。陸上部の練習では部員が自分の地域の小学校に行って小学校の先生方とともに指導を行います。記録が一気に伸びてうれしそうなお小生の顔をみる中学生の顔もうれしそうでした。今は、出前合唱として、2・3年生を中心に各小学校の音楽集会に出

かけて合唱を聞いてもらったりいっしょに歌ったりしています。難しい曲ですが低学年の児童も静かに聴いています。何より、小学校の先生方の優しい視線が中学生に注ぎます。まさに、「みんなで育てる子どもたち」の心境です。

教職員が中心になって行っている連携は、旧6年生担任と中学1年生担当者の連絡協議会、地域ふれあい道徳公開、南アルプス市の教育支援センターとの連携も含め、小学校と共に「学びの質を高める」授業公開も行いました。共同的な学びを通し、子どもたちが授業の主人公になることで主体的に学ぶ姿が見えてきています。子どもの問題行動未然防止のための事業ですが、楽しく生き生きした活動が健全育成につながっています。



〔「笑うネコの会」(櫛形地区児童生徒連絡協議会)〕



〔出前合唱(最後に小学生といっしょに歌いました)〕



〔陸上練習会(近くの競技場で小学生に指導しています)〕

校訓「和顔愛語」

わげんあいご

山梨県立盲学校

新校舎完成

昨年8月に新校舎が完成し、日本一新しい盲学校となりました。視覚障害教育の専門機関として日本一の盲学校を目指しています。本校は、幼稚部から高等部までの設置で、現在3歳から66歳までの幼児児童生徒が学んでいます。

目指せ日本一

この夏、盲学校の甲子園と言われる全国盲学校野球大会が本県で開催されました。本校は関東地区予選で優勝、全国大会では4位の成績を残すことができました。3位までのチー

ムが全て各地区の選抜チームであったことを考えると単独チームとしては素晴らしい成果だと言えます。来年こそは全国制覇と意気込んでいます。

視覚障害者の職業的自立を目指して

県内の特別支援学校の中では唯一、職業課程があります(療養関係三学科)。鍼灸あん摩マッサージ指圧師の国家試験に合格し、障害をのりこえ社会自立・社会復帰を目指して、学業に取り組んでいます。校訓「和顔愛語」の精神で。

「和顔愛語」：なごやかな顔と思いやりのある やさしいことば



日本一新しい盲学校



関東地区盲学校野球大会優勝凱旋

「いじめ・不登校ホットライン」二十四時間体制

— 電話教育相談は、いつでも「〇五五―二六三―三七二―」へ —

山梨県総合教育センター教育相談部

◇電話相談◇

教育相談部では、県下の児童生徒の健やかで心豊かな生活を目指し、悩みや不安などを共に考え、問題の改善や軽減を図ることができるよう電話相談を実施しています。

この電話相談の名称を「いじめ・不登校ホットライン」と呼んでいます。

【いじめ・不登校ホットラインの経緯】

□平成八年四月

いじめや不登校など、児童生徒にかかわる諸問題に対応するための電話による教育相談としてスタートしました。

従前の電話教育相談を発展拡大し、平日九時から二十一時まで相談員が対応することになりました。

□平成九年四月

相談時間を、平日九時から二十二時まで一時間延長しました。

□平成十一年四月

相談員が対応する時間以外は、留守番電話での対応になりました。

□平成十九年二月

いじめ問題の深刻化を受け、平日はもちろん土曜・日曜・祝日も含め、二十四時間相談員が対応する電話相談体制となりました。

◇電話相談の特質◇

☆いつでも自分の好きな時に相談できる。

☆地理的移動に伴う時間や交通費などの負担を省くことができる。

☆相談者は匿名であることが多く、このため、安心して自分のことを語ることができる。

☆相談員は顔が見えない存在であり、相談者は自由に相談を中止することができる。

☆このような特質を踏まえ、電話相談員は様々な点に留意し、細心の注意を払いながら日々の相談に対応しています。



〈電話相談の様子〉

◇電話相談件数◇

平成十八年度は、年間一六四八件のコールがありました。但し、本年度は十月末現在一六七五件で、既に昨年度年間件数を超えています。

時間帯では、昼間が全体の約六十一%、夜間が約二十九%、深夜・早朝が約十%になります。カードやチラシを配布し、多くの県民に周知されると同時に、相談時間帯が大き

く広がったことにより、相談件数が増加してきているのではないかと思います。

◇相談内容◇

相談内容を主訴別に見ると「生活一般・不登校・いじめ」に関するものが多く、全体の約四十三%になります。また、「情緒問題や交友関係」の相談も少なくありません。

ホットラインでは、あくまでも相談者自身が問題の軽減のための一歩を踏み出せるように支援を行っていますが、電話相談の限界を超えるような困難な状況にある場合は、面接相談へもつなげています。また、相談内容によっては他の機関と連携しなければならぬケースもあります。

◇相談から見えること◇

電話相談には様々な方から相談が寄せられますが、相談者に共通した部分もあります。

それは、ほとんどの相談者が他に相談する人や場所がない状況に置かれているということと、速効的な解決方法を求めているということです。

人間関係の希薄化が指摘されている現代の社会だからこそ、不安や悩みを話し合える家族・友人等の存在を大切にしたいものです。

また、問題解決のための特効薬はなかなか見つかりません。じっくり話を聴き、相談者自身が問題に真正面から向き合えるためのエネルギーを持てるよう、受話器を通して支援しています。

『図書館員の道具箱…テーマ別調べ方ガイド』

山梨県立図書館

◇ 数え方について調べる ◇

1. 辞典で調べる

『数え方の辞典』(小学館 2004)

第1章「ものの数え方」では約4600語の数え方が載っています。1つの名詞に対して複数の数え方がある場合もすべて載せ、数え方のポイントが解説されています。第2章「助数詞・単位一覧」には約600語について、それらが持つ意味および用法が解説されています。

『ことば絵事典』第2巻(偕成社 2006)

イラストを豊富に使って、子どもにも分かり易くなっています。単位についても掲載されています。

『もののかぞえ方絵事典』(PHP研究所 2001)

イラストが豊富です。巻末に五十音順索引が掲載されているので、調べたい箇所がすぐ分かります。数え方の基本的な決まり事や、おもしろい数の歴史が掲載されています。

2. 数え方(助数詞)を調べる

『日本語助数詞の歴史的研究』

(三保忠夫著 風間書房 2000)

歴史的見地から助数詞について幅広く考察しています。

『数え方でみがく日本語』

(飯田朝子著 筑摩書房 2005)

数え方から日本語を見直す本です。

助数詞と単位の見分け方についても載っています。



資料の所蔵場所は図書館職員にお尋ねください。

☆☆英語では…☆☆

『英語の「ものの数え方」辞典』(瀬谷廣一著 講談社 2006)

英語の名詞を数える際に用いられるグループターム(group term)、日本語でいえば「助数詞」にあたる集合名詞をすべて網羅しています。巻末に日本語の「ものの数え方」一覧が掲載されています。

『研究社英語の数量表現辞典』(研究社 2007)

トピック別編と和英編の2部構成になっています。トピック別編には64のトピックについて解説しています。和英編では、和英辞典の形式で約1200の日本語見出しを収録しています。

ここで紹介した資料以外にも関連資料がございます。ご利用ください。

山梨の文化財

県指定有形文化財（考古資料）

大善寺中世墓出土陶器七点（大善寺）

（平成十九年四月二十六日指定）

本資料が出土した柏尾山大善寺は、平安時代前期の創建とされ、古くは柏尾寺、柏尾山寺などと称し、本尊の薬師三尊像は重要文化財、県内最古の寺院建築である本堂（薬師堂）は国宝に指定されている有名な古刹です。

写真の資料は、四耳壺二点、瓶子三点、小壺一点、水滴一点の合計七点で、いずれも本堂周辺や参道沿いで境内整備により、偶然発見されました。個々の出土状況は不明ですが、産地の編年から十三世紀代に収まる事が解っています。



この内、四耳壺の内部から骨片が出土しており、水滴以外は使用にあたって容器の一部を打ち欠く行為が見られ、蔵骨器としての用途に供されたことが推定されます。さらに、大善寺周辺は、経塚群や中世墓群も確認されています。これは、大善寺が在地豪族から庇護された大寺院であるが故に、手厚く葬ることが必然的な行為であったことをうかがわせます。

本資料は、本県の鎌倉期（十三世紀代）における在地豪族の葬送や墓制を知る上で、極めて重要な資料と言えます。

主な行事予定

県立美術館

■新収蔵品展

1/26 ~ 3/2

県立文学館

■新収蔵品展

1/22 ~ 3/30

県立博物館

■新春特別企画展

1/2 ~ 2/30

県立図書館

■第四回資料紹介展示

「山梨のお国自慢 ー日本や世界に自慢できる山梨ー」
1/25 ~ 3/23

表紙を飾る



作品タイトル

「ジュウナナサイ」

この作品は、将来への期待と不安を表現したものです。何があっても、まっすぐ上を向いていようという気持ちを込めて描きました。描いている途中で、締め切りに追われて焦りつつも、納得がいかず何度も直しました。囲碁将棋部との兼部で時間調整のため、家に持ち帰っての制作もありました。結果的に満足できてホッとしています。

指導者 広瀬義充 教諭

山梨県立都留高等学校
学年 2年
大窪 萌木

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス: kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX: 055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyouiku/46150769857.html>